

# 平成28年度 教育警察常任委員会管外視察の概要

- 視察日 平成28年10月11日（火）～13日（木）
- 視察者 教育警察常任委員（7名）  
 淵上陽一（委員長）、橋口海平（副委員長）、城下広作、松田三郎  
 森 浩二、岩田智子、大平雄一
- 視察先 ①警視庁警備部災害対策課 特殊救助隊（東京都立川市）  
 ②セコム株式会社 I S 研究所（東京都三鷹市）  
 ③横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校（横浜市）  
 ④鎌倉市議会（神奈川県鎌倉市）

- 視察趣旨 次のとおり、今後の委員会審議の参考とするため視察を実施しました。
- ① 警視庁特殊救助隊は、平成23年の東日本大震災の教訓を踏まえて、大規模災害時の初動警察活動に警察力を集中させるため、全国警察で初の救助専門部隊として平成24年9月に発足した。高い救助技能を有する部隊の運用方法や発災時の事案対処能力等を調査し隊員と意見交換することにより、今後の委員会審議の参考とする。
  - ② セコム株式会社は、顔検知技術や人物の行動解析技術など先進のセキュリティー技術を有しており、2019年ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会の県内開催、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控えた本県の警備方法等の検討に資する技術を調査し研究所員と意見交換することにより、今後の委員会審議の参考とする。
  - ③ 横浜サイエンスフロンティア高校は、サイエンスリテラシーやグローバル・スタディーズ等、他に類を見ない特色ある教育を実践しており、同校の運営状況等を調査し学校関係者と意見交換を行うことにより、本県高校の新たな取り組みの検討など、今後の委員会審議の参考とする。
  - ④ 鎌倉市は、本年4月、短期間の準備で日本遺産認定を受けており、申請までの取組状況と今後の展開等を調査することにより、本県の日本遺産認定に向けた取組の検討など、今後の委員会審議の参考とする。

## ■視察の概要

### ①警視庁特殊救助隊

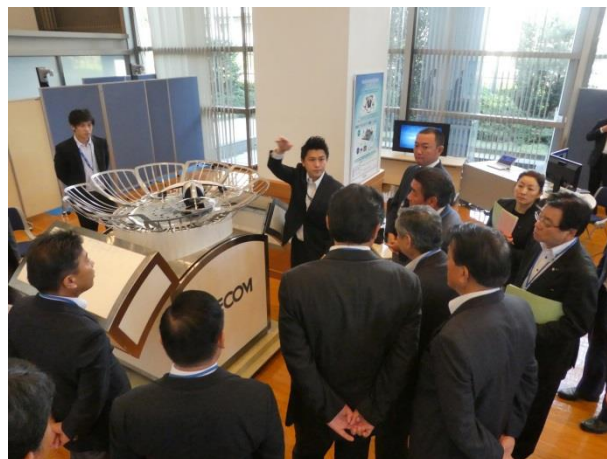
同救助隊は、首都直下地震等の大規模災害に備え、高度の救出救助技能を有する救助専門部隊を作ることによって事案対処能力を高めるとともに、普段は、各警察署や機動隊に対する救助技能の指導により警視庁全体の救助レベルアップを図ることを目的として設置されました。

視察では、特殊救助隊の概要や熊本地震への派遣状況等について説明を受けた後、隊の訓練状況を見学し、隊員と意見交換を行いました。



## ②セコム株式会社 I S 研究所

同研究所は、セコムの基盤技術を研究開発しており、飛行船を活用した警戒技術、ドローンを活用した監視技術、侵入者を検知するセンシング技術、人の出入りを管理する顔認証技術、G I Sを活用した空間情報技術等の様々な先進技術について、所内を見学しながら説明と実演を受けるとともに、熊本地震では、阿蘇大橋付近の地形データの提供を行ったことなどをお聞きしました。その後、研究所員と意見交換を行いました。



## ③横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

同校は、横浜市の高校教育改革の取り組みの中で、世界に羽ばたく人材を育成する目的で平成21年度に開校した、サイエンスに特化し先端科学4分野を高校から体験できる一学年6クラスが理数科だけという特徴を持つ学校で、学校長から、同校の教育方針や著名科学者等による充実した支援体制等について説明を受け、学校施設を見学した後、市の担当者や先生方と意見交換を行いました。



## ④鎌倉市議会

同市は、鎌倉の歴史的遺産を人類共通の宝として守り続けようとして世界文化遺産登録を目指すも、平成25年にイコモスから不記載勧告を受け、翌年策定した第3次市総合計画の中で、勧告内容を反映させた「歴史的遺産と共生する街づくり」を計画の柱と位置付けました。その推進のため、平成27年度に歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」を作成し、これらの取り組みの過程で、改めて鎌倉の歴史を深く掘り下げなおしたことが日本遺産認定申請の下地となり、僅か3カ月足らずの期間で準備し、文化庁から認定を受けたことと、認定後の取組状況等についての説明を受け、市の担当者と意見交換を行いました。

